

# 実践のまとめ（小学校6学年道徳科）

授業公開日 令和5年9月29日第5校時

指導者 小千谷市立小千谷学校

教諭 松井 祐太

## 1 研究テーマ

**自分の決めた立場を基に多面的・多角的に考え、納得解を導き出す児童の育成**

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領では、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」が求められている。また、物事を多面的・多角的に考えることについては、「二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱う」などの指導上の工夫の例が示されている。

今までの実践では、児童と教師でつくる学習問題を意識して授業に取り組んできた。その成果として、教材文や道徳的価値についての児童の問題意識を高めて授業の展開に入ることができてきた。児童の問題意識の高まりが見られるようになったが、自分の考えを書いたり、GIGA端末で入力したりすることを不慣れとする児童が多く見られることが、新たな課題として感じられた。また、問題を多面的に考えながら具体的な意見を述べたり、友達の意見を踏まえながら多角的に自分の考えを見直したりすることに苦手意識がある児童も見られた。

以上の点を踏まえ、対立の事象等を取りあげながら、その中で全員に自分の立場を示させることを通して、一人一人が考える必然性をつくり、具体的に理由を考えたり、交流したりすることで、納得解を導き出すことができると考え、本研究テーマを設定した。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 自分の立場を決めることができるツールや学習活動の導入

授業前半部で問題場面について二項対立の物事を取り扱い、ネームプレートやスケールなどを使用しながら全員に自分の立場を示させる。このことにより、児童が自分の選択についての理由を考えたり、具体的にしたりする必要性を高めることをねらう。

#### ② 考え直すことや新たな気づきを生み出す（思考に転機を促す）補助発問

児童の考えの反対の立場を問うたり、児童の既存の価値観にゆさぶりをかけたりするなど、考え直したり、新たな気づきを生み出したりする補助発問を導入する。このことにより、児童の視点が広がり、より多面的・多角的に思考を深めることを期待する。

### (3) 研究テーマにかかわる評価

本時の中心発問について、中心発問提示後に自身の考えを書くことができた人数を、手立て導入前の授業と後の授業で集計し、比較する。また、記述の具体的な内容も比較する。

## 3 指導計画

### (1) 主題名

許すこと、受け入れること（内容項目B-11 相互理解、寛容）

### (2) 教材名

「ブランコ乗りとピエロ」（「新・みんなのどうとく」 学研）

### (3) 主題設定の理由

#### ① ねらいとする道徳的価値

内容項目B-11「相互理解，寛容」は、広がりや深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受け止めることや広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会をつかっていくために必要な資質・能力である。

広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止めることが、広がりや深まりのある人間関係を築く原動力になるという自覚をもたせるよう指導することが求められる。

#### ② 教材と児童

児童は、困っている友達に対して、明るく声を掛けたり力を貸して助けたりでき、思いやりのある児童が多い。一方で、失敗したり、その場に適さない行動をする児童を過度に責めたり、学習などがうまくいかない児童を笑ったりする姿が一部見られる。

このことを踏まえ、互いに支え合おうとする意識を高めたり、失敗した後どのように行動すべきかを考えたりすることに重点を置いて指導を行ってきた。人を厳しく責める様子は減少してきたが、失敗した相手に対して寛容的に受け入れようとする姿は、あまり増えていないと感じている。

本教材「ブランコ乗りとピエロ」は、サーカス団の中で、ブランコ乗りのサムとピエロが、それぞれ自分がスターだと思って衝突するが、おごりを捨てて相手を尊重すると、お互いをよく理解することができたという内容である。物語の世界の中で人間関係を見つめ直すことで、自分の言い方や相手への感情を冷静に、客観的に振り返ることができる教材である。二人が和解し、サーカス公演の共演最終日を迎える様子から、互いの意見や立場を尊重していこうという道徳的実践意欲を育みたい。

### (4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学 期	特別活動（児童会） 「縦割り班顔合わせ」（5月）		運動会（5月） いじめ見逃しゼロ月間（6月）
	国語「友達の意見を聞いて考えよう」（7月）		
2 学 期	国語「話し合って考えを深めよう」（8・9月）	「ブランコ乗りとピエロ」（9月） B-11 相互理解，寛容	劇「学校の創生」（11月） 緑鳥子ども祭り（11月） いじめ見逃しゼロ月間（11月）
3 学 期		「差し出し続けた大きな手」（2月） B-11 相互理解，寛容	6年生を送る会に向けて（2月） 卒業式に向けて（2・3月）

(5) 本時のねらい

ピエロがサムを許した理由について話し合うことを通して、相手の思いや考えを理解したり、尊重したりすることのよさに気づき、謙虚な心を持ち、互いに歩み寄りながら、自分と異なる意見や立場を大切にしようとする意欲を高めることができる。

(6) 本時の展開 (令和5年9月29日 実施)

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童（生徒）の反応	◇留意点
導入	<p>□ 日常を振り返る。</p> <p>□ 感想を発表する。</p> <p>□ 自分の立場をネームプレートで示す。</p>	<p>○ 今までに「これは、許せない」と思った経験はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大切にしていたものを壊された。</li> <li>・ 友達に約束を破られた。</li> </ul> <p>○ 感想を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピエロはサムを許せてすごい。私なら許せないと思う。</li> <li>・ サムは、なんで時間をオーバーしてしまったのだろう。</li> </ul> <p>○ ピエロがサムを許したことについて疑問に思った人がたくさんいた。あなたがピエロなら、サムを許す？許さない？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 許す。サムは、すでに他の団員から攻められているし、結果的にサーカスはうまくいったから。</li> <li>・ 許せない。許したら、サムはまた同じことを繰り返してしまう。他の団員にも迷惑をかけているし、サーカスのリーダーとして、許してはいけない。</li> </ul>	<p>◇ 事前に読んだ感想を提出させ、集計しておく。</p> <p>◇ サムが自分勝手な行動をとった背景を確認する。</p> <p>◇ 二項対立する発問として「許す」「許さない」で立場を決め、その理由についても問う。</p> <p>◇ 感想をもち、黒板のスケールにネームプレートを貼ることで、問題意識を高めていく。</p> <p>◇ 「許す」の意見を先に聞き、「許さない」の意見を後に聞く。</p>
展開	<p>□ 学級全体で話し合う。</p>	<p>◎ <b>ピエロがサムを許したのは、どのような気持ちからなのか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サムが自分勝手な行動はやめようと改心すると信じていたんじゃないかな。そうじゃないと許せないと思う。</li> <li>・ 私がピエロだったら、怒って許さない。ピエロも怒ってはいるのだけれど、「サーカスを成功させたい」という自分と同じ思いをサムはもっているということに気付いたんじゃないかな。</li> <li>・ なるほど。ピエロが許すきっかけは、限界まで頑張るサムを見た時かもしれないね。その姿を見た時に自分と「目指すところは一緒だ」という思いをもてて、許せたのではないかな。</li> </ul>	<p>◇ 考えを整理するため、自分の考えをつくる活動を設定する。</p> <p>◇ 全体で話し合う前に、友達の意見を聞く時間をとる。</p> <p>◇ 児童の意見を板書しながら整理する。</p> <p>◇ 話し合いの際、自分勝手な行動をしたサムの背景に立ち戻る。</p> <p>◇ 児童の様子を見取り、適宜思考に転機を促す補助発問をする。</p> <p>「全力で演技すれば、チー</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうだよ。ピエロは、限界まで頑張るサムに、心をうたれたのかもしれないね。そして「自分もサーカスの大成功を目指して、限界まで頑張ろう」という気持ちで、サムに寄り添って考えたら、自然と許せたんじゃないかな。</li> </ul>	<p>ムの輪は、乱していいのかな。」</p> <p>「サムは、また自分勝手な行動をするかもしれないよ。」</p> <p>「サムの立場で考えると、どうでしょう。」</p> <p>「そもそも、サムを許していいのかな。」</p>
終末	<input type="checkbox"/> 学習を振り返る。	<input type="checkbox"/> 今日の授業で大切にしたい考えは、なんだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分勝手な行動をした人を許してあげるとは、難しい。でも、相手の立場になって考えながら、相手を許してあげることによって、よりチームがよくなったり、大きな成功ができたりするのなら、自分も許してあげられるようになりたい。</li> <li>・自分の立場や能力に関係なく、素直に相手の意見に耳を傾けたり、相手の立場に立って考え、事情を理解してあげたりできるようにしていきたい。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 自分が大切にしたいことを中心に、考えたことを記述する。

### (7) 本時の評価

#### ① 評価の視点

- ・誰にでも過ちを犯すことがあるということを理解し、自分と異なる意見や立場を大切にしようとするということについて、様々な立場や視点に立って考えたり、友達の意見を聞いて自分の意見を考え直したりして、多面的・多角的に考えたか。
- ・謙虚な心で、これまでの自分を見つめ、相手の気持ちに歩み寄りながら、広い心で接することの難しさや尊さについて考えながら、相手の思いや考えを理解したり、尊重したりすることのよさに気付くなど、考えを深めていたか。

#### ② 評価の方法

- ・発言
- ・ノート記述

### (8) 板書計画

「ブランコ乗りとピエロ」

・ 児童の感想

みんななら、サムを・・・

許す

←

→

許さない

サーカスを成功させるためにやったから結果的にサーカスはうまくいった。

サムは、同じことを繰り返すかもチームの輪を乱している。みんなの出演時間を奪っている。

◎なぜ、ピエロはサムを許したのか。

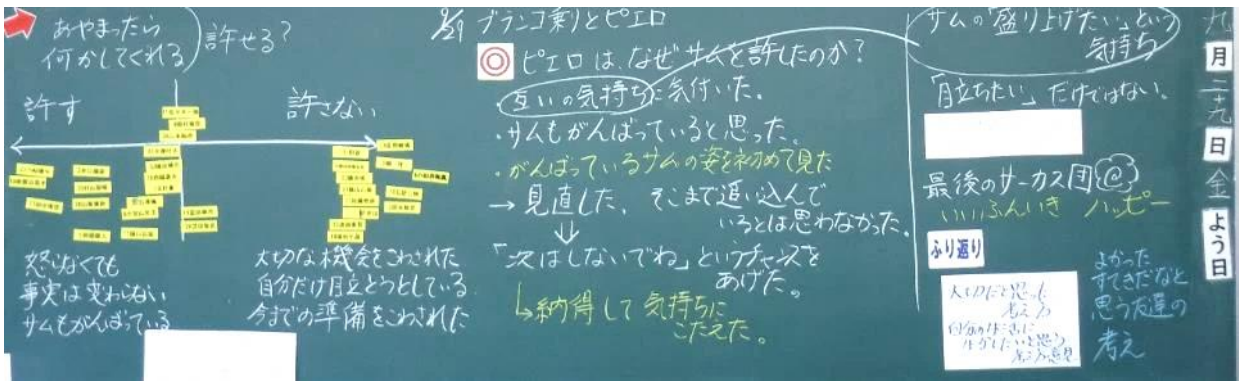
- ・サムが改心すると信じているのでは。
- ・お互いが「サーカスを成功させたい」という思いをもっている。
- ・限界まで頑張る姿に心をうたれたのでは。
- ・自然と許す気持ちが生まれてきた。もはや、許す・許さないではなく、「受け入れる」。

**振り返り**

大切にしたい考え、自分の生活に活かしていきたいこと。

## 4 実践を振り返って

### (1) 授業の実際



#### 【当日の板書】

教材文の内容確認については、事前課題として課し、感想を記述させておいた。これにより、本時の導入は、短時間で行うことができた。

本時のはじめ、児童から簡単に感想を發表させたところ、ピエロの優しさについての発言があった。理由について問うと「ピエロが許したから」という発言があった。

その発言を基に教師が「みんなだったら、サムのこと許せますか」と問い、「許す」「許さない」のどちらの立場か分かるようにネームプレートを黒板のスケールに貼らせた。(右の写真)その後、それぞれの立場を決めた理由を確認した。その際、はじめに少ない「許す」立場の児童、次に「許さない」立場の児童の順に理由を確認した。児童の考えを基に「教材文では、ピエロはサムのことを許した」という内容に着目させながら、「ピエロはなぜサムを許したのか」という追求課題(◎)を設定した。(図1)

追求課題について個人の考えを記述したカードを授業支援ソフト(ミライシード)のプリント等の配付・回収機能(オクリンク機能)を使って提出させた上で、それを基に立ち歩きながら自由に意見交流する時間を設定した。その後、全体で意見を

確認したところ、「許す・許さない」ではなく、「互いの気持ちが近付いていったこと」「互いが相手の新たな一面に気付いたこと」「相手のことを決めつけていたと気付けたこと」といった考えや「互いに『サーカスを盛り上げたい』という気持ちがあること」についての考えも出始めた。ピエロの優しさや歩み寄りの姿から、サムを許すことに至った気持ちの変化に迫る考えが児童の中から生まれた。



- T: ネームプレート、大体こんな感じですか？真ん中が少し多いかな？で、許さないが一番多いかな？  
結局ピエロはどうしていたのですか？  
C: 許した。 C: 許す機会をあげた。  
T: なんで？  
C: 分からない。  
T: とくに、「許さない」の人にとっては、「なんでサムを許したのかな」というのが思うと思う。  
C: 心広すぎ。  
T: 事前にとった感想でも、同じこと言っている人がこんなにいっぱいいます。(感想で同内容の記述を掲示する)  
T: みんな同じ感じで、なんでサムを許したのかといった疑問を書いた人が多いですね。今日の◎、そのあたりで考えてみましょうか。どんな◎にしたらいい？  
C: 超ストレートに、なぜ許したか。  
T: ストレートにそれでいい？  
C: (多くの児童が頷く)

◎ピエロは、なぜサムを許したのか

図1 追求課題が設定されるまでの授業

## (2) 手立ての有効性について

### ① 自分の立場を決めることができるツールや学習活動の導入

5月に行った事前実践では意見を記述できた児童が30名中28名であった。その内、4名が意見を記述することはできたが、その理由を記述するまでには至らなかった。本時では、32名全員が意見を記述することができた。また、理由を記述することができなかった児童は1名であった。このことから、スケールを活用して自分の立場を決めてから考えを記述させる学習活動は、児童が考えや理由を記述する上で有効であったと考えられる。また、この手立てについて児童にアンケートを取ったところ、「手を挙げるのが苦手な人とかの意見が分かるからよいと思う」「一度にクラスの人の意見を見られるのがよい」など、手立てに関するよさを感じている記述が多くみられた。(図2)

- ・ 手を挙げるのが苦手な人とかの意見が分かるからいいと思います。
- ・ 自分の考えだけでなく、クラス全員の考えが分かる。
- ・ 一人一人の立場が明確になるのがいいと思いました。
- ・ いっきにクラスの人の意見を見られるのがいいなと思いました。
- ・ 発表が苦手な人も発表できるのでいいと思いました。
- ・ 最初から自分の意見をはっきり決めるから、振り返りが書きやすいです。あと、友達の意見も分かっていいと思います。
- ・ 黒板にネームプレートを貼ると、意見が分かれて、いろいろな人の理由が分かっていいと思った。

図2 手立て①についての児童アンケート記述

ネームプレートを貼る活動中、黒板に貼りに来た児童同士や貼っている様子を見ている児童同士が、既にその立ち位置に決めた理由などを自然と交流し始める姿が見られた。立場を決めることで、理由を考える必然性が生まれ、考えをつくりやすくなったり、意見を交流しやすくなったりしたと考える。

また、自分の立場を決め、教材文におけるピエロの判断に立ち返らせたり、事前に集約した感想と照らし合わせながら考えさせたりすることは、児童主体で追求課題を設定する活動に効果的に働いたと言える。

### ② 考え直すことや新たな気づきを生み出す（思考に転機を促す）補助発問

児童は、教師からの新たな気づきを生み出す補助発問により、自分の考えを振り返ったり、立ち止まって考えたりする姿が多く見られた。

本時では、「サムは、頑張っていれば許してあげていいのかな」という教師の補助発問により、ピエロの『サムの頑張り』への気づきに関する考えが出てきた。さらに「最初からサムが頑張っていれば、全部の時間をサムにあげてもいいってなったのかな」という補助発問に対して、ピエロの優しさや歩み寄りの様子、またピエロがサムを許すに至った気持ちの変化の過程についての考えが出てきた。そして「結局、サムは自分だけが目立ちたかったのではないですか？」という補助発問に対しては、ピエロとサムの共通している気持ちとして「目立ちたい」だけでなく、「サーカスを盛り上げたい」という気持ちもあったという発言に繋がった。

右図は、抽出児の授業展開時と振り返りの記述の変容であ

私は、何でピエロがサムを許したのかというと、サムの頑張っている姿を見たり、疲れているところを見て自分も目立ちたかったけど、本気で演技をしている所を見て凄いいと思、許したのではないかと思います。

私は[ ]さんの、頑張っている姿を初めて見て「見直した」「そこまで追い込んでいると思わなかった」という意見にすごく納得しました。サムにも気持ちがあるしそれを分かって許した④はやっぱり凄いいと思いました。これからも相手の気持ちを考えながら色々な事を頑張りたいです。

図3 抽出児の授業展開時と振り返りの記述

る。自分でつくった考えを基に授業で出た考えを踏まえながら、登場人物の「相手の気持ちを理解する」という姿への憧れを高めていることが読み取れる。また、教師の補助発問やそれに対する友達の意見を受け、多面的・多角的に考えることができたを読み取れる（図3）。

以上の様子から、教師の補助発問をきっかけに児童の考える視点が変化し、新たな気付きや他の発言との繋がりを得ていることが分かる。また、教師の補助発問を基に新たな考えを生み出す児童だけでなく、教師の補助発問に対しての他の児童の返答（やりとり）を聞くことで、新たな視点を得ている児童の姿も見られた。このことから、教師による補助発問だけでなく、それに反応した児童の発言からも新たな気付きを生み出す効果があることを大きく実感することができた。

### (3) 今後の課題

今回の研究では、「自分で決めた立場を基に多面的・多角的に考え、納得解を導き出す」ことについて追求した。今後は、黒板に提示したスケールにネームプレートを貼る活動の他に、児童の発達段階や実態に合わせた立場の決め方についてさらに検討し、どのような手立てをとるのが適切か考えていきたい。

また、複数の登場人物の心情を行き来しながら多面的に考えられるようにしたり、教材文から離れて自分の気持ち（自分事）として考えたりできるよう、補助発問の意図を明確にして、児童の思考に沿って提示できるような方法を検討していきたい。

本実践では、児童の思考が「許す」「許さない」の二項対立から「それ以外の気持ちがある」というものに変化していった。児童の思考の流れに合わせて、柔軟に授業を展開できるよう、教材や発問等の準備の仕方を検討していきたい。

#### <参考・引用文献>

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』2015.7

南魚沼市教育委員会『「特別の教科 道徳」（道徳科）授業づくりハンドブック～全員参加の道徳授業を目指して～』2021.4

加藤宜行『加藤宜行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える発問&板書の鉄則 45』明治図書 2018.2

加藤宜行『加藤宜行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える導入・終末&評価の鉄則 31』明治図書 2022.2

加藤宜行『加藤宜行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える教材研究&授業構想の鉄則 35』明治図書 2020.3